

用語解説

あ行

◇ICT

Information and Communication Technology の略で「情報通信技術」をいう。IT (Information Technology) とほぼ同じ意味を持つが、コンピューター関連の技術を「IT」、コンピューター技術の活用に注目する場合を「ICT」と区別して用いる場合がある。

◇ICU/CCU (集中治療室)

Intensive Care Unit の略で「集中治療室」をいい、呼吸、循環、代謝その他の重篤な急性機能不全の患者の容態を24時間体制で管理し、より効果的な治療を施すことを目的とする。そのうち、循環器系、特に心臓血管系の疾患を抱える重篤患者を対象としたものをCCU (冠疾患集中治療室: Coronary Care Unit) という。

◇IVR-CT

Interventional Radiology- Computed Tomography の略で、画像診断 (X線透視装置、超音波、CT、MRI など) を施行しながら、主にカテーテルテクニック、または穿刺術を利用した治療 (「カテーテル治療」「血管内治療」という) を行う装置 (X線血管撮影装置) とコンピューター断層撮影 (CT) 装置を兼ね備えた、血管内治療を安全かつ効率よく実施することを可能にした高度医療器械。

◇ADL

Activities of Daily Living の略で、「日常生活動作」と訳される。日常生活を営む上で、普通におこなっている行為、行動のこと。具体的には、食事や排泄、整容、移動、入浴等の基本的な行動をいう。リハビリテーションや介護の世界で一般的に使われている用語の一つで、要介護高齢者や障がい者等が、どの程度自立的な生活が可能かを評価する指標としても使われ、例えば「ADLが自立している」という場合は、普通は介護を必要としない状態をいう。

◇X線CT装置

CTとは、Computed Tomography の略で「コンピューター断層診断装置」をいう。X線CTは、X線検査の立体版で、レントゲン照射した後にコンピューターで2次元画像を作り出すことができる。MRI と比べ、広い範囲の検査や骨や肺の状態を観察したい場合、全身を短時間で撮影する場合に適している。しかし、CTは多少なりとも放射線被ばくがあり、また空間分解能ではMRI に勝るが、病変と正常組織の濃度の差 (コントラスト) ではMRI に劣る。

◇NICU (新生児特定集中治療室)

Neonatal Intensive Care Unit の略で、新生児に特化した専用のICU (集中治療室) をいう。早産児や低出生体重児、または何らかの疾患のある新生児が対象で、一般のICU以上に細菌感染などを防ぐために、新生児を一人ずつ保育器の中で厳重に管理し、呼吸や循環機能の管理といった専門医療を24時間体制で提供する。

◇MRI

Magnetic Resonance Imaging の略で「磁気共鳴画像診断装置」をいう。磁気を利用して、体内の水素原子の量と、水素原子の存在の仕方を画像化することで体の臓器や血管を撮影する装置で、脳や筋肉など水分の多い箇所の画像診断に適している。またCTと違い、放射線被ばくの心配がないので、繰り返す検査や妊婦や子どもの検査などに適している。また、病気と正常組織とのコントラストがCTよりも明確であり、横断像のみでなく、縦や斜めからと任意の断面を得ることができるが、一部を撮影するのに約30分程度の時間を要し、また1回に検査できる範囲が狭く、骨の変化が分かりにくいいため、全身を撮影するのには向いていない。また、狭く大きな音のする空間に長時間いる必要があるため、ペースメーカーを埋め込まれている方や閉所恐怖症の方には不向きなど制限が多い。

◇化学療法

抗がん剤を用いて癌を治療すること。他の治療法、例えば外科手術、放射線療法と対比する場合に使われる。

◇がん診療連携拠点病院

地域におけるがん診療連携の拠点病院としての役割を果たすことのできる専門的医療体制（がん専門医、放射線治療医、精神科医などの専門医、精神保健福祉士などのケアに関わる専門家、無菌病室や放射線治療施設、医療機器、がん登録システム、研修体制、情報提供体制等）を有する病院をいう。

◇ガンマカメラ

シンチレーションカメラとも呼ばれ、核医学検査において、体内にごく微量の放射線を放出するアイソトープ（R I）検査薬を投与すると、脳、心臓、肺臓、腎臓、骨など、特定の臓器や腫瘍等に集まり、放射線（ガンマ線）を放出することから、放出された放射線を捉えて体内分布を画像化する核医学診断装置をいう。

◇緩和ケア

がんと診断されたときから行う、身体的・精神的な苦痛をやわらげるためのケアをいう。

◇企業債

地方債（地方公共団体が1会計年度を超えて行う借入れ）の一つで、交通、水道、病院などの地方公営企業の事業資金を調達するために地方公共団体が発行するものをいう。

◇基礎年金拠出金

各公的年金制度（国民年金、厚生年金保険、共済組合）から共通の土台である基礎年金を維持するために、拠出する資金をいい、その2分の1ずつが国庫負担と保険料から賄われる。

◇基本領域専門医

一般社団法人日本専門医機構に、公の資格として認証された「専門医（それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、十分な知識、経験を持ち、患者さんから信頼される標準的な医療を提供できる医師）」のうち、基本的な医療領域として定められた18の領域学会において、必要な研修プログラムを経て認証された医師のことをいう。

◇救急救命士

病院への搬送途上に限り、傷病者に対し救急車等にて救急救命処置を施し、速やかに病院へ搬送することを目的とした国家資格の名称をいう。

◇救急告示病院

厚生労働省の「救急病院等を定める省令」に基づいて都道府県知事が認定した医療機関をいう。救急医療の知識や経験を持つ医師が常時診療していることや、レントゲンなど救急医療に必要な設備を持つなどの要件があり、3年ごとに認定を更新する必要がある。告示を受けていれば診療報酬や地方交付税が優遇される。

◇救急ワークステーション

消防と病院が連携し、医療機関に救急隊を派遣し、平時は救急隊員の病院実習を行い救急医療に関する知識及び技術の向上を図る一方で、救急出動時には必要に応じて医師や看護師が救急車に同乗し、現場で必要な救命措置を行うことで救命率の向上を図ることを目的とする事業をいう。

◇急性期病院

病気や怪我の症状が一番激しい時期（急性期）の患者を受け入れる病院をいう。ほかに、治療により症状が一段落し回復に向かう時期を「亜急性期（回復期）」、症状が安定した時期を「慢性期」という。

◇救命救急センター

急性心筋梗塞（こうそく）や脳卒中、重度の外傷・熱傷などの重症及び複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる三次救急医療施設をいう。初期救急や二次救急では対応できない、生命の危機を伴う重症・

重篤な救急患者に対する救命措置や高度な医療を総合的に行うこととされており、初期救急・二次救急医療施設及び救急搬送機関からの救急患者は、原則として24時間必ず受け入れなくてはならない。そのため、これに対応できる設備や、重症で複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者に対応できる専門医の配置等が求められている。また、救命救急センターはおおむね100万人に対して1カ所を設置されている。

◇KPI（重要業績評価指標）

目標達成のために、具体的な業務プロセスをモニタリングするために設定される定量的な指標（業績評価指標：performance indicators）のうち、特に重要なものをいう。一般的には「引合案件数」「訪問回数／商談期間」「成約率（受注率）／歩留率」「平均受注単価」「解約件数」などがある。これを一定期間ごとに実績数値を計測し、プロセスの進捗を管理する。

◇高度急性期

急性期のうち、病気や怪我の症状が重度のものをいう。高度急性期病院とは、高度・専門的な入院医療を提供し、重度の急性期疾患に対応する機能を有する病院をいう。

◇後発医薬品

これまで有効性や安全性が実証されてきた新薬と同等と認められた低価格な薬をいい、「ジェネリック医薬品」ともいう。国民医療費の削減及び患者負担の軽減に貢献するものとされている。

さ行

◇災害医療拠点病院

災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るための病院をいう。緊急対応できる体制があり、被災地内の患者の搬出・受け入れなどを行う。

◇災害派遣医療チーム（DMAT）

Disaster Medical Assistance Team の略で、医師、看護師、業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームをいう。

◇GCU（継続保育治療室）

Growing Care Unit の略で「回復治療室」「発育支援室」ともいう。NICU（新生児特定集中治療室）での治療で、低出生体重から脱した赤ちゃんや状態が安定してきた赤ちゃんなどがこの部屋に移動して引き続きケアを受ける。

◇施設基準

医療法で定める医療機関及び医師等の基準の他に、健康保険法等の規程に基づき厚生労働大臣が定めた、保険診療の一部について、医療機関の機能や設備、診療体制、安全面やサービス面等を評価するための基準をいう。

◇資本的収支

公営企業会計において、施設の建設改良に関する投資的な収入と支出で、企業の将来の経営活動の基礎となり、収益に結びついていくものをいう（⇔収益的収支）。

◇社会保障制度改革国民会議

社会保障制度改革推進法に基づき、社会保障制度改革を行うために必要な事項を審議するため、内閣に設置された政策会議をいう。平成24年11月から平成25年8月にかけて20回にわたり会議が行われ、平成25年8月6日に報告書がとりまとめられた（平成25年8月21日に廃止）。

◇収益的収支

公営企業会計において、日々の営業活動に必要な経費をいう（⇔資本的収支）。

◇重症度、医療・看護必要度

「入院患者へ提供されるべき看護の必要量」を測る診療報酬の要件として開発が進められた指標をいい、特定集中治療室管理料の算定や7：1入院基本料（一般の急性期病棟で看護配置が手厚い病棟）の算定に用いられる。平成26年度から、名称を「重症度、医療・看護必要度」と改め、評価項目が医学的な処置（モニタリング及び処置等）等の必要性を示すA項目と、患者の日常生活機能（患者の状態等）を示すB項目に改定された。

◇紹介率・逆紹介率

紹介率とは、受診した患者さんのうち、開業医や他の医療機関から紹介状を持参した患者さんの割合、逆紹介率とは、病院から開業医さんや他の病院へ紹介した患者さんの割合をいう。

なお、算定方法は次のとおり（平成26年度診療報酬改定の「地域医療支援病院」の算定方法による）。

【紹介率】

$$\frac{\text{紹介患者の数}}{\text{初診患者の数}} \times 100 \Rightarrow \frac{\text{①}}{\text{③} - (\text{④} + \text{⑤} + \text{⑥})} \times 100$$

【逆紹介率】

$$\frac{\text{逆紹介患者の数}}{\text{初診患者の数}} \times 100 \Rightarrow \frac{\text{②}}{\text{③} - (\text{④} + \text{⑤} + \text{⑥})} \times 100$$

- ①紹介患者の数（初診に限る）
- ②逆紹介患者の数（診療情報提供料算定患者数）
- ③初診患者の数（初診料算定患者）
- ④救急自動車により搬入された患者の数（初診に限る）
- ⑤休日または夜間に受診した救急患者の数（初診に限る）
- ⑥健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者の数（初診に限る）

◇初診時保険外併用療養費

医療機関の機能分担の推進を目的として、200床以上の病院を紹介状なく受診（初診）する場合に、健康保険の自己負担金とは別に負担を求めることが厚生労働省により認められている制度をいう。ただし、「救急車による搬送」や「健康診断の結果、精密検査や治療が必要」など、紹介状を持参していなくても負担する必要がある場合がある。

◇診断群分類別（MDC2）

Major Diagnostic Categoryの略で、DPC（診断群分類包括評価制度）において、診断群分類を疾病分類ごとに大別した主要診断群のうち、2番目の診断群のことをいう。

◇総合入院体制加算

十分な人員配置及び設備等を備え総合的かつ専門的な急性期医療を24時間提供できる体制及び病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制等を評価した加算をいい、入院した日から起算して14日を限度として算定できる。年間の手術件数や医療機能、第三者評価（加算1及び加算2）などが施設基準等となっており、「総合入院体制加算1」、「総合入院体制加算2」、「総合入院体制加算3」の3種類に分類される。

た行

◇地域医療構想調整会議

医療法第30条の14に基づく二次保健医療圏等単位の会議をいい、地域の病院・有床診療所が担うべき病床機能に関する協議、病床機能報告制度による情報等の共有、都道府県計画（都道府県が作成する地域における医療及び介護の総合的な確保に関する目標を達成するために必要な事業計画）に盛り込む事業に関する協議及びその他の地域医療構想の達成の推進に関する協議を行う。

◇地域医療支援病院

医療機関の連携及び役割分担を図るため、紹介患者に対する医療提供、病床や医療機器の共同利用の実施、地域の医療従事者の研修等を通じ、かかりつけ医等を支援する機能を備えた病院をいう。必要な支援に関する要件は、次のとおり。

- 1 現に、医療法で定める病院としての施設設備を備え、200床以上の病床を有すること。
- 2 医療法で定める人員が配置されていること。
- 3 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供していること。
 - (1) 紹介率が80%以上
 - (2) 紹介率が65%以上、かつ、逆紹介率が40%以上
 - (3) 紹介率が50%以上、かつ、逆紹介率が70%以上
- 4 病院の建物、設備、機械又は器具を、院外の医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療従事者の診療、研究又は研修のために利用させるための体制が整備されていること。
- 5 救急医療を提供する能力を有し、一定の救急搬送患者を受け入れていること。
- 6 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修を年間12回以上主催すること。
- 7 集中治療室等の必要設備を有すること。
- 8 集中治療室等の必置施設の構造設備が、厚生労働省令で定める要件に適合するものであること。

◇地域包括ケア

団塊の世代が75歳以上となる2025年（平成37年）を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される、地域の包括的な支援・サービスをいう。

◇超高齢社会

総人口に対して65歳以上の高齢者人口が占める割合を高齢化率という。世界保健機構（WHO）や国連の定義によると、高齢化率が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」、21%を超えた社会を「超高齢社会」という。

◇通院不要的退院率

総合入院体制加算における施設基準の一つ。地域の他の医療機関との連携を図る指標の一つとして用いられ、4割以上の確保が求められる。

【計算式】

$$\frac{\text{診療情報提供書作成患者の数} + \text{転帰が治癒の退院患者（当該または他の医療機関で外来受診の不要な患者）の数}}{\text{直近1か月の総退院患者数}} \times 100$$

（外来化学療法・化学療法専門外来・HIV等に係る専門外来・死亡を除く）

◇DPC

Diagnosis Procedure Combination の略で「診断群分類包括評価制度」をいう。「診断病名」と「医療サービス」との組み合わせの分類を基に1日当たりの包括診療部分の医療費が決められる計算方式で、従来の診療行為（項目）ごとに計算する「出来高支払方式」とは異なり、入院患者さんの病名や症状を基に、手術や処置などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた診断群分類点数に基づいて、1日当たりの金額からなる包括評価部分（注射・投薬・処置・検査・画像診断・入院基本料等）と出来高評価部分（手術・麻酔・心臓カテーテル・内視鏡検査・リハビリ等）を組み合わせる医療費を計算する日本独自の新しい定額払いの会計方式。1日当たりの定額の点数は、患者さんの主要な疾患（病名）を基本として手術・処置・副傷病名の有無などにより分類される「診断群分類」と呼ばれる区分ごとに、入院期間に応じて定められる。

な行

◇7対1入院基本料

入院患者7人に対して、常時看護師1人以上を配置することで取得できる施設基準をいう。手厚い看護体制であり、

高度医療への対応、医療安全の確保を図ることができる。一般病棟で、看護配置、看護師比率、平均在院日数その他の事項につき厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして、保険医療機関が地方厚生局長等に届け出た病棟に入院している患者について、当該基準に係る区分に従い、所定の点数が定められている。この施設基準の要件の一つに、「重症度、医療・看護必要度」がある。

◇二次救急輪番制と三次救急

二次救急とは、入院や手術を要する症例に対する医療をいい、そのうち、いくつかの病院が当番日を決めて救急医療を行うことを輪番制という。三次救急とは、二次救急まででは対応できない重篤な疾患や多発外傷に対する医療をいい、救命救急センターや高度救命救急センターが該当する。

※初期救急（一次救急）とは、入院や手術を伴わない医療をいい、休日夜間急患センターや在宅当番医などが該当する。

◇二次保健医療圏

一般的な入院医療への対応を図り、保健・医療・福祉の連携した総合的な取組みを行うために市区町村域を超えて設定する圏域をいう。神奈川県内の二次保健医療圏は11圏域あり、当院は「湘南西部（平塚市、伊勢原市、秦野市、大磯町、二宮町）」圏域に属している。

◇認定看護師

公益社団法人日本看護協会が認定する、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師をいう。

は行

◇ハイケアユニット (High Care Unit)

高度治療室または準集中治療室をいい、HCUと略される。ICU（集中治療室）と一般病棟の中間に位置する病棟で、ICUよりもやや重篤度の低い患者を受け入れる治療施設。手術直後の患者などを一時的に収容する。

◇プレホスピタル医療

医師や看護師が、病院から現場に出場し、重症救急患者に対して最善の医療を迅速に提供する、病院（ホスピタル）に到着する前（プレ）の医療をいう。例えば、ドクターヘリやドクターカーに搭乗し現場で医療行為を行うことや、救急隊から引き継いだ傷病者の観察と治療を行いながら、病院までの搬送を行うことその他、救急ワークステーションや災害医療派遣チーム（DMAT）の活動等もこれに該当する。

◇ホルミウムレーザー

前立腺肥大症に対する治療（HoLEP）をするために、内視鏡の先についたレーザーメスで肥大した前立腺腺腫を、安全確実に切除していく手術に使用する医療機器をいう。

ま行

◇マンモグラフィー

乳癌の早期発見のために人の乳房をX線撮影する乳房専用のX線撮影装置をいう。乳がんの初期症状である微細な石灰化や、セルフチェックでは分かりにくい小さなしこりなどを検出することができる。

ら行

◇リニアック

体の外側から放射線を照射して、がん等の病気の治療をしたり痛みを緩和する医療機器をいう。検査（X線撮影、CTなど）で用いられる放射線よりもはるかに高いエネルギーの放射線を用いる。